

活気と潤いがあり、みんなが「育つ」学校を目指して

自分の一歩 みんなの一歩

校長室だより II

朝霞市立朝霞第一小学校

令和3年5月31日

No.18 (合同No.6)

校長 野口 邦彦

互いに支え合う、補い合う

これからの社会に大切なことでは

高齢者の新型コロナのワクチン接種が中々進まない中、次のようなニュース報道がありました。「高齢者のワクチン接種でネックとなるのが予約システム。電話は中々つかまらず、ネット予約はよくわからない。そんな状況の中、大学生や若者が、そのネット予約を代行する、そんな動きが出てきた」というニュースです。

最近『持続可能な社会』ということが、盛んに言われています。それがどんな社会を意味しているのか、どんな社会になっていくのか、まだ見えてこない部分もあります。人はそれぞれ長けている所もあれば、苦手な所もあります。これは年代でも言えますし、個人個人でも言えます。それぞれの長所を生かし合い、苦手な所は補っていく、今までも行われてきたことですが、これまで以上に、こういったことを大切にしながら生きていく、これも『持続可能な社会』の一つの形であるように思います。

例えば今回の事例、「高齢者はネットが苦手だから、この機会に覚えてもらう。」これも一つの考え方であり、これができる人もいるかもしれません。でも、全てではなく、ほとんどの方がネット予約ができず困っている、だったら、それをネットが得意な若者が補ってあげる。まさに「支え合い、補い合う」具体例だと思います。我々のまわりには、こういった事例がたくさんあります。例えば、



学校に車椅子の方がいる。校内には段差が多くスロープが少ない。でも、スロープはすぐにはできない。だったら、近くにいる人がちょっと手伝ってあげて、持ち上げてあげる。こうすることで、車椅子の方はスロープのない不便さをあまり感じない。こういった事が当たり前になる社会が『持続可能な社会』のひとつでもあるように思います。(もちろんスロープを増やす努力はするべきですが)

お金があれば、人もつけられるし、施設を充実させることもできます。でも、現実にはそれが難しいこともたくさんあります。だったら、現状の中で何とかできないか。たがいに「補い、支え合う」中で。新型コロナは負の面もたくさんありますが、危機感の中で見つかった、みんなが本気になりだした正の部分もたくさんあることを、あらためて感じたニュースでした。